

令和6年度 第1回学校運営協議会

日時 令和6年5月28日（火）午後3時30分から

場所 小松島高等学校 大会議室

- 会次第
- 1 開会
 - 2 自己紹介
 - 3 学校長挨拶
 - 4 役員選出について
 - 5 協議
 - （1）学校経営方針について
 - （2）本校の現状と課題について
 - （3）令和6年度学校評価計画について
 - （4）各委員からの提言等について
 - 6 その他
 - 7 閉会

学校長挨拶

板東校長

本日は大変お忙しいところで、また大雨で色々冠水しているようなところもある中、お越しいただきまして、本当に誠にありがとうございます。今年度も学校運営協議会の委員の皆様には色々とお願いをさせていただきます。学校の経営方針、運営方針でありますとか、いろんな事業についてのご意見いただくとともに、議員の皆様からいろんな提言とか情報提供、提案などいただきながら、より良い学校になっていくような話し

合いができたかなという風に思っておりますので、1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

安崎教頭

引き続いて、役員選出ということで説明をお願いします。

板東校長

会長について、私から事務局の提案をさせていただこうと思います。

昨年に引き続き、会長は徳島大学高等教育研究センターキャリア支援部門の畠一樹様にお願いをしたいと思います。副会長は私、板東ということでいかがでしょうか。ご承認いただける方は拍手をお願いいたします。

どうもありがとうございます。それでは、原案通り、会長は畠様、副会長は板東ということでお願いしたいと思います。

今後、この協議会をこのような形で進めさせていただきます。それでは、ここからの協議はまた会長様に進行をお願いいたします。よろしくお願いします。

畠会長

畠でございます。ただ今ご承認いただきましたので多方面からの貴重なご意見をいただきながら、小松島高校のより良き運営に資するよう、この場を進行してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。早速ですが、会次第に従って協議を進めてまいりたいと思います。まず1つ目、学校経営方針についてご説明をお願いいたします。

板東校長

それでは、失礼いたします。学校概要について説明をさせていただきます。学校要覧をご覧ください。まず、13ページになります。全校生徒496名になっておりまして、500名を切ってしまいました。募集定員は170名で、なんとかギリギリのラインを保っているような状況です。昨年度もお話させていただきましたが、これが160名になりますと、クラスが1クラス減って、教員の数が大幅に減ることになりますのでギリギリ

165 名を保てたらと思っております。市町村別の生徒数であります、ご覧いただくと、小松島市が 167、徳島市が 141、阿南市 156 と小松島、徳島、阿南のそれぞれの市から、3 分の 1 ずつが登校してきているというような状況です。通学の状況で言いますと、自転車が約 250 で、列車が約 200 ということで、本校は駅がすぐ近くにありまして、JR を使って登校している生徒が、多いのではないかなと思っております。続きまして、次のページの進路状況のところをご覧ください。昨年度の卒業生は大学が 104 名、専門学校が 43 名となっておりまして、国立大学には 12 名が合格をしております。大学が 64 パーセント、専門学校は 26 パーセントで就職は 10 パーセントというような内訳になっておりまして、一昨年度とほぼ同じぐらいの割合となっております。5 年前ぐらいから比べると少し就職の数が減ってきております。特に注目すべきは、専門学校と大学の中で医療、福祉、看護の人数が合計約 30 名にもなっておりまして、167 名の内の 30 名なので、かなり大きな割合を占めています。

理学療法、作業療法、看護、歯科衛生 というようなところに多く生徒が進学しております。医療系が人気かで、今年度についてももう少し増えるように聞いております。少し戻りますが、11 ページをご覧ください。部活動の成績を載せております。陸上競技、体操、ライフル射撃に関しては、県大会と四国大会に出場しております。特にライフル射撃部につきましては、ビームライフル団体競技で、4 年連続で団体競技入賞をしております。女子個人に関しては、昨年全国優勝しています。文化部につきましては、吹奏楽部が県の吹奏楽コンクールを勝ち抜きまして、四国大会に出場しました。それから、放送・演劇部が県大会で 2 位になりまして、四国大会に出場し、四国大会でも 2 位になっております。春に、春季全国高等学校演劇大会に 3 月に出場をしております。体育部、文化部ともに非常に生成成績を残しております。

続きまして、4 ページをご覧ください

学校経営方針をご説明させていただきます。まず、本校のスクールミッションですが、徳島教育大綱が令和 6 年度から新しく変更されました。それに伴いまして、本校のスクール・ミッションも変更されております。前のスクリーンに映しておりますのは令和 5 年度のミッションです。今年度のミッションがお手元にあるものです。「地域の経済活動や社会生活を豊かにする実践力を育成します。」から、今年度版は「豊かな社会生活の実現に貢献し、地域や社会の未来を切り拓く力を育成します。」と、若干文言が変わっており、わかりやすくなったか思っています。「経済活動」って少し難しいなと考えていたんですけども、本校が行なっているような活動を見て、「社会生活の実現」「地域や社会の未来」という分かりやすい言葉に直してくださったかなと思っております。続きまして、この教育目標については変更はございません。

続きまして、グランドデザインというこれは生徒にどういう力をつけさせるものを定めたものです。「自分の物語を作る」ということをキーワードにしております。「自分とむきあう」「人とむきあう」「世界とむきあう」という力を3年間で身に付けさせるんだということで設定をしております。それを基にしまして、「教育課程に関する方針」この文言を少し調整をさせていただいたと同時に、まなびイベント等により、主体的で個別最適な『まなび』を推進します。」を追加しております。ここについては後でまた少し説明をさせていただきます。「入学者に関する方針」につきましても、少々調整しましたが、内容については変えておりません。続きまして、年度の重点課題です。5つ入れているんですけども、特に前に映しています「生徒主体の活動の充実」「スタディサプリの活用推進」です。昨年度は「GIGA スクール構想の実現」という文言で書いておりましたが、今年よりちょっと具体的にさせていただいています。この2つについて今から少し説明をさせていただきます。まず、「㊸生徒主体の活動の充実」というところですが、学校要覧の11ページに生徒会の組織表が載っています。その中の専門委員会というものがありまして、生徒が委員を務めております。専門委員会を少し変えまして、中の役割についても各担当の教員の方で考えて、ICT 委員会を新しく作りました。それからボランティア推進委員会に力を入れていこうということで、担当の人数をちょっと増強しております。文化部の人権部と JRC が括弧で囲まれているのですけれども、これは部活動の方から委員会活動の方にその活動内容を動かすということで、委員会活動として活動しようということで、整理させていただきました。ボランティア推進委員会ですけれども、これまでも小松島市と連携しながらボランティア活動をしておりました。先日、徳島新聞にも掲載されましたが、南小松島駅の活性化プロジェクトを小松島市の方と連携し取り組んでおります。生徒が30名ほど参加しております。南小島駅の状況をどうにかできないか、活性化できないかということで話し合いを色々しております。生徒の方から、期間限定のカフェを作れたらいいのではないかと、クラウドファンディングで資金を調達できないかなど、職員の方と連携を進めていくということです。第1回目の時は、市長さんから委嘱状をいただきまして、生徒もやる気になっているところです。これが1つ非常に大きなものかなと思っております。他にも、高齢者のためのスマホ教室とか、保育所との連携で、保育所の方から読み聞かせなど生徒にとっては非常に大きな経験になるような話もたくさん来ておりまして、外部の団体と連携しながら、生徒のいろいろな活動をバックアップしていけたらと考えております。このような活動を推進していくのがボランティア推進委員会が中心になって、そのメンバーが参加したりとか、そのメンバーに人集めてもらったりとか、そういうことができたらと考えております。

次に、「スタディサプリの活用推進」について話をさせていただきます。

ICT 支援課に未来のためのまなびプロジェクトを統合しました。スタディサプリの利用促進をしていただこうと思っております。

今までは **Classi** という学習支援アプリを利用していたんですが、県の支援が切れたということで、見直しをいたしました。動画の学習支援がスタディサプリのほうが充実しているということで切り替えました。これまでのまなびイベント等の継続をスタディサプリを使ってしていこうということです。

未来のためのためのまなびプロジェクトは時事通信社の教育奨励賞に県から推薦をいただきました。担当からまなびイベントについて説明をしてもらいます。

久保

本校では「松高ルーブリック」を設定しています。これは「自分とむき合う」「人とむき合う」「世界とむき合う」という目標を、レベル1からレベル4までの段階で記述したものです。これは生徒たちの成長の目標としています。学年集会だけでなく、各クラスでも主任からも説明していますし、1年生がレベル1、2年生がレベル2、3年生が卒業時の目標としてレベル3を目指します。

松高ルーブリックを基点としたカリキュラムマネジメントは、校長先生を中心に数年間かけて進めてきました。各教科や特別活動においても一貫性を持たせています。4月と12月に生徒たちが自己評価を行い、その結果を基に教育活動の見直しも行っています。

また、生徒には不定期にフィードバックを行い、自己評価を通じて非認知能力も育成しています。自分がどのレベルに達しているかをアンケートで自己評価を行い、その結果をリーフレット等で生徒たちに伝えています。

昨年度は、生徒が自己評価で「レベル3やレベル4に達している」と答えることが多かったですが、今年度はより丁寧に説明を行い、レベル1の人数が多くなったりと、評価が適切に行われるようになりました。3年生になると、自己評価の結果が向上し、目標に向かっていることが実感されています。

まなびイベントとして、「学習マラソン」を実施しています。これは学習時間を記録し、全校で取り組むものです。また、6月と11月には「学力アップチャレンジ月間」を設け、スタディサプリを利用して学習を進めています。新しいアプリ「スタディプラス」も導入し、学習記録を可視化することで、モチベーションの向上に繋がっています。

教員も新しいシステムに慣れる必要があり、先生向けの通信も作成しています。手帳コンクールも実施し、学びに向かう力を育成しています。イベントがルーブリックのどの

部分に繋がるかを生徒に伝え、フィードバックも丁寧に行うことで、生徒の個別最適化を目指しています。

昨年度の生徒授業なんですが、小勝地区の3中学校に11月に行かせていただきました。こちらは数学の授業がメインでした。昨年度は初挑戦で、体育の体を動かしたり、ボールを使ったりする授業を中学校で挑戦しました。今、右上の写真には野球部の生徒がボールを投げてる様子が写ってます。普段は授業が苦手な生徒も、得意なスポーツを使って人前で話すことで、生き生きとした姿がとても印象的でした。

こういった活動は探究心を育てたり、生徒自身の主体的な学びに繋がったり、人前で話すことや人のために貢献することで自己効力感の育成立ってるんじゃないかなと思っています。

次に、松高未来のための手帳についてです。去年の最優秀賞を取った子の手帳なんですが、すごくデコっている女子高生の手帳って感じで、この子はソフトボール部のマネージャーでした。県総体に向けての意気込みが書いてあります。今週のハイライトや、自分の気持ちと体の状態を10段階で表して、毎日記録しています。生徒はこれを毎日朝のホームルームで書いています。この手帳はきっと高校生活の思い出として本棚に残るんじゃないかなと思います。手帳には自己管理や振り返りのページもあり、学びに向かう力を育てるのに役立っていると思います。

今後も改善点を洗い出し、計画の修正を行いながら、プロジェクトを進めていきたいと思います。アイデアがあればお伝えいただければと思います。お願いいたします。

佐藤委員

素晴らしい取り組みだと思います。

畠会長

何か質問等はございませんか。ご意見やご提言につきましては最後にまとめて、今回はご質問のみでお願いいたします。

久保委員

生徒がどんどん活用してくれたらいいんですが、まだ一部の生徒にとどまっているので、それを広げていけたらいいなと思います。

畠会長

1つ質問があります。今、こちらのスライドで先生からのフィードバックがあるという話でしたが、生徒同士でアイデアを出し合ってフィードバックをもらうという横の学びは？

久保委員

ありがとうございます。今考えているのは、ICTの取り組みがありましたが、通信を私が担当していて、この通信を生徒が作るのが理想です。学習マラソン1回目をやってみて、自分のおすすめの使い方や継続の工夫など、3年生に呼びかけて、生徒の意見を集めています。

畠会長

続けて令和6年度の学校評価計画について説明をお願いします。

板東校長

昨年度から少し様式を変えさせていただいております。

左側に2段だったのを1段にして、育成を目指す資質、能力、それから令和6年度の重点課題という風に、A、B、Cと①から⑥までの数字を入れました。例えば1番上の企画推進課では、この項目の①が重点課題の数字です。このCが育成を目指す資質能力、それから③が生徒主体の活動の充実です。目標を立てて、その目標が育成を目指す能力のA、B、Cのどれに入るか、①～⑥の重点課題のどれに入るかをこの項目に入れています。

まず校務分掌の形で企画推進課、キャリア支援課、まなびプロジェクト推進課、こころとからだの支援課、活動創生課、学年、管理職という形にしています。管理職の目標に各教員の授業改善の目標を設定し、年度末に成果を確認します。昨年度は各教科の目標もありましたが、今年は統一せず、各教員に目標を設定してもらい、管理職に報告する形にしました。スタディサプリも授業で活用することを1つの研究テーマとして設定しました。学校全体で頑張っていこうという形にしています。3月には実施状況を確認

します。11月にオープンスクールで授業の様子を話していただいたり、中間報告的なものができたらいいなと思っています。

畠会長

はい、ありがとうございます。ご質問はございますか。

畠会長

それでは、これまでの協議についてご意見、ご提言をいただきたいと思います。どなたからでも結構ですので、お願いいたします。

佐藤委員

本当に感動しました。毎年、学校の外への生徒たちの繋がりについて話していましたが、今回の分は外への繋がりが強化されていて、本当に感謝しています。特に提案はありません。応援させていただきます。以上です。

井村委員

小松島市役所と一緒に活性化のワークショップをやってくれている様子を見ました。本当に若い人たちの感覚で企画を持ってくれるのは嬉しいです。ワークショップが形になるのはいつ頃ですか。

安崎委員

昨年度からスタートして、市のトイレの改修工事に合わせて進めています。クラウドファンディングなどの活動もしていく予定です。

井村委員

保育所の連携についてですが、中学校などでの授業に行かれるのはイメージできますが、保育所との連携は？

板東校長

読み聞かせを考えているようです。教員を目指している生徒もいる。高校生にとってもいい経験になると思います。

久保

高校生が避難訓練で子供たちと手を繋いで避難することもあります。

板東校長

保育所との連携や高齢者のスマホ教室など、生徒が色々な活動をしています。生徒授業でしていることがつながっていくのありがたいです。

佐藤委員

コロナ以降の高校生世代は自主性や社会的責任感が少し落ちていると感じますが、このカリキュラムと先生方の取り組みで回復していく印象を受けました。生徒同士の横の繋がりも重要だと思います。

内山委員

スタディサブリは小松島高校独自の取組ですか。

板東校長

スタディサブリは昨年度から富岡西高校が導入しているようです。徳島県ではベネッセの Classi という教育支援アプリを導入していることが多いです。

導入を進めたかった理由の1つは、これからの時代はデジタルファーストで、使いこなすことが大事で、生徒が使えるようになることをめざしているからです。教員も授業改善に利用したいと表明してくれている人もいます。

井村委員

Classi とスタディサプリと両方使ったのは小松島高校ですよね。実際はどうか。

安崎教頭

本校は Classi を大変使いこんでいました。他のアプリを導入するのはその点で難しいのではないかと心配していましたが、円滑に進んでいます。

久保

小松島高校は授業の中でアウトプットをさせる機会が多いのではないかと考えています。プレゼンテーションなどデータをそのまま生徒がこのような Classi やスタディサプリのアプリを使って教員に提出することができるので、授業の活動の中で利用することが多いです。そのため、生徒も活用頻度が上がってくるのではないかと思います。

内山委員

このような成果も広報して、生徒募集にも生かしていただければうれしく思います。

井村委員

学習の成果が可視化できることがすばらしいです。

畠会長

「非認知」というキーワードがでてきたかと思うのですが、小松島高校では「自分と向きあう」ということをされていると思います。大学生も自分の大切にしているものは何と尋ねられたときに、「なんとなく」と答える生徒もいます。「非認知」のところが「認知」になるということが自己理解スキルの部分が発展途上だなと感じることがあります。DX 化だけではなく、アナログな部分の AX 化が必要だなと感じています。小松島高校では AX 化はどのように進めようと考えていますか。

久保

手帳の活用では自分とむきあうという時間を確保出来ていると感じています。総合的な探究の時間の中で自分の興味・関心を探っていく時間もあります。また自分の長所や仲間の長所を伝え合うなどの活動も行っています。

畠会長

教員はティーチングは得意であるが、コーチングは苦手な方もいます。コーチングの研修を受けられている方もいます。また、非認知能力の開発という点で、アートを取り入れられている学校もあります。特別活動の文化部の活動のなかで、「なんとなく」の部分のアートの視点から言語化できるのではないかと考えています。心技体で考えると、心は文化部の活動で心の部分で、技は授業、体は体育、この3つが連動し始めるといい教育になるのではないかと思います。言語化出来ない部分をブラッシュアップしていただくという底上げの部分が磨きがかかるともっといい小松島高校になると思います。

佐藤委員

生徒の長所の発見をしていただいています。私もプロジェクトの活動の中で、生徒の長所の発見を全力で行います。人に言われて気づく自分の長所もあります。気づかされた長所は、急激に伸び始めます。お互いに長所を伝え合えたら、認め合うことにもつながります。生徒数が多い中で難しいとは思いますが、スタディサプリや手帳など、生徒とのやり取りの中で長所を見つけて教えるような機会があればいいなと思います。

畠会長

大学でも、学生は短所を多く書き、長所が書けないことが多いです。自分の好きなことが見つかっていないので、自分の強みが見えていないのかもしれませんが。好きなことが見つかると「好きこそものの、上手なれ」になると思います。

佐藤委員

長所プラス理由を伝えることを心がけています。

畠会長

短所がでてくると、リフレーミングをしてあげることが大事だと思います。

質問なのですが、「世界とむきあう」という世界とはどのようなことをさしているのですか。

板東校長

この世界は、グローバルという意味の世界も含まれていますが、地域社会も入っています。今回、市と連携する活動がありますが、それも「世界とむきあう」という活動です。昨年から NewsPicks というニュースサイトを登録しています。夏以降から本格化して利用していけたらと考えています。

久保

徳島文理大学主催の国際交流活動で韓国・台湾の高校生が来校することになっています。ボランティアスタッフを募ったところ、現在約60名が希望しています。

畠会長

小松島市はどのような国際交流がありますか。

内山委員

小松島港には外国船が来港します。

久保委員

コロナ禍前にはボランティア活動で小松島高校生も参加させていただきました。

畠会長

高校生が歴史を伝えたりしてもいいですね。

畠会長

本日予定されている協議内容については終了しました。事務局の方にお返ししたいと思います。

安崎教頭

ありがとうございました。第2回の学校運営協議会についてなんですが、去年は11月に オープンスクールの時に来ていただいて授業を見ていただきました。本年度もそのような予定になります。

本日の全日程が終了しました。委員の皆様方、大変お世話になりました。